広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	東京外国語大学におけるスーパーグローバル大学創生支援事業 ：「留学200%」の現状と課題
Author(s)	岡田, 昭人
Citation	広島大学森戸国際高等教育学院紀要 , 2 : 1 - 14
Issue Date	2020-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/49218
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00049218
Right	
Relation	

東京外国語大学におけるスーパーグローバル大学創生支援事業
―「留学 200%」の現状と課題 ―

岡田昭人

はじめに

2014 年 9 月、文部科学省は日本の高等教育の世界的競争力向上を目的として「スーパーグローバル大学創成支援事業」を開始した。本事業は世界のトップレベルの大学との連携により日本の大学の教育・研究のさらなる国際化を図り、大学改革を牽引する「グローバル大学」を対象に重点支援をするものである。

「スーパーグローバル大学」には、「トップ型」及び「グローバル化牽引型」があり、それぞれ 13 校と 24 校の合計 37 校が選定された。前者は「世界大学ランキングトップ 100 を目指す力のある大学」、後者は「これまでの実績を基にさらに先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する大学」である。

本事業に採択された大学は、それぞれが特徴のある新しい制度やプログラムを設計する。その主な成果指標には、「全学生に占める外国人留学生の割合」、「日本人学生に占める単位取得を伴う留学経験者の割合」「外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合」などが含まれている。

文部科学省は 2018 年 2 月、37 大学のこれまでの取組状況についての中間評価を実施し、5 段階で評価したものを Web サイトに公開している。

1.東京外国語大学のスーパーグローバル大学創成構想

2014 年、東京外国語大学（東外大）はスーパーグローバル大学創成支援 （タイプ B: グローバル化牽引型 ）に選定された。東外大はスーパーグローバル大学構想「人と知が循環を支えるネットワーク中核大学 ―世界から日本へ、日本から世界へ―」をスローガンとして、2024 年度までに「真の多言語グローバル人材を養成する大学」、「日本から世界への発信を担う大学」、「日本の大学のグローバル化を支援する大学」を目指し、以下の構想と取り組みを実施している。

（参照　http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/pr/strategicprojects.html）

東京外国語大学の提案書：
http://www.jsps.go.jp/j-sgu/data/shinsa/h26/sgu_chousho_b02.pdf

多言語グローバル人材養成プラン

- 自主的計画的な学びの TUFS クオーター制
- 留学 200%+受入れ留学生 2 倍

- Joint Education Program
- 語学を中心とした教育指標の可視化
- 多言語カリキュラム

発信力強化プラン
- 世界各地に Global Japan Office 設置
- 全学教養日本力プログラム

大学グローバル化支援プログラム
- TUFS 留学支援共同利用センターの活用
- Global Japan Office の共同利用

東外大では 2023 年までに具体的な目標として、「留学 200%」「外国人留学生を 2 倍の 1,216 人」「外国語による授業科目数を 2 倍」「TOEIC®800 点以上を 4 倍」「海外協定校との共同教育プログラム Joint Education Program の開設」「海外拠点 Global Japan Office を世界各地の 38 拠点に設置」「4 学期制「TUFS クオーター制」を導入」「留学支援共同利用センターの設置・活用」「外国籍教員を 2 倍に」を目指している。
（https://tgu.mext.go.jp/universities/tufs/index.html）

2.「留学 200%」
東外大が構想で掲げた留学に関する目標は次のように述べられている。

「多言語運用能力、複合かつ俯瞰的な視点の獲得のため、目的、機関、派遣先に多様性をもたせた留学プログラムを開設し、本学学生の在学中の留学機会を増やすことで、学生 1 人が最低 2 度の留学を行う「留学 200%」を目標とする」

すなわち東外大では日本人学生への留学支援体制を拡充し、学生が在学中に 1 人 2 回以上海外留学する、「留学 200%」を目的としている。これにより例えば、アジア・アフリカ地域に 1 度、欧米に 1 度という選択も可能となる。今後、「留学 200%」は交換留学・単位取得を伴う休学留学・短期海外留学・協定校との Joint Education Program 等により、さらに学生留学の機会を増やして行くことが検討されている。

3.東外大の留学制度

上記の構想目標を達成するために、東外大ではどのような留学制度を実施しているのか、またの学生がどのような留学を行っているのかについて紹介する。

東外大では毎年入学直後のアンケートでは、新入生の 90%以上が留学を希望している。実際、2019 年 3 月卒業予定の日本人学生のうち 75.1%が、在学中に留学を経験している。2018 年度の第 1 年次のうち 52%（計 417 人）が短期海外留学をし、第 3 年次に在籍する学生の 62%（計 595 人）が長期海外留学をしている。

一般的に留学制度は、学生の目的や希望する留学先、期間、予算などによって種々の形態がみられる。東外大の留学制度では、長期留学で 6 つ、そして短期留学で 5 つに分類されている。

http://www.tufs.ac.jp/admission/navi/support/studyabroad/programs.html

長期留学制度

4 学期制における 1 学期以上の期間の留学を「長期海外留学」として定義している。

① 交換留学（学部・大学院）

東外大と海外協定校との学生交換の枠組みであって学生を相互に派遣する形の留学制度。2018 年 5 月 1 日現在で、64 カ国・地域の 156 の高等教育機関と学生の相互交換に関する協定が締結されている。協定に基づき、海外の協定校の学生が東外へ派遣され教育を受ける一方、海外の大学に日本人学生が派遣される。例年、前年の 10 月に公募、11～12 月に選抜、1 月に決定というスケジュールである。

交換留学では、学生は休学しないで派遣されるため、交換留学期間を含めて 4 年で卒業することができる。実際、多くの学生が 4 年で卒業し就職や大学院進学をしている。

交換留学の場合は、学生は学費を留学先に支払う代わりに東外大に納入する。学費以外の生活費に関しては、留学先の国や地域で異なるが、東外大では給付型奨学金の確保に努めている。2018 年度開始の交換留学では、199 人の派遣者（大学院 8 名）が奨学金を受給しており、うち 189 人が JASSO の海外留学支援制度奨学金が支給された。JASSO 奨学金の受給には、東外大の学業成績（GPA）が考慮され、また派遣先機関での単位取得が条件となっている。

② 休学留学

休学して留学する学生のうち、単位認定の申請を行っている学生の留学。単位認定が行える機関は、事前に東外大の教授会で承認されていることが必要となる。休学留学により取得した単位は、東外大の卒業必要単位の一部にすることができる。

②　　自由留学

休学して留学する学生のうち、単位認定の申請をしないで海外の教育機関に留学する。

④　　長期インターンシップ

休学して海外渡航する学生のうち、主な目的がインターンシップである場合の留学。2014年から独立行政法人国際交流基金によって開始された「日本語パートナーズ」による派遣も含まれる。「日本語パートナーズ」は幅広い世代の人材を、ASEAN 諸国の主に中学・高校で日本語を教える教師、またそこで学ぶ生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣する事業である。派遣者は授業アシスタントや生徒たちとの会話の相手として学習を促す活動をはじめ、教室内外での日本語・日本文化紹介活動などを行い、ASEAN 諸国の日本語教育を支援することと同時に、派遣者自身も現地の言語・文化についての見聞を深め、相手国と日本とを結ぶ役割を担うことが目的とされている。

https://jfac.jp/partners/

⑤　　長期研究留学

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学するものであって単位認定はない。コチュテルや日本学生支援機構の海外留制度　（大学院位取得型）での留学等を含む。コチュテルとは、東外大では「外国の大学院等と博士論文共同指導」と定義される。一般的には、所属大学と外国の大学の連携高等教育機関との間で協定を締結し、それぞれの機関の指導教員が共同で指導し、博士論文が合格となった場合には、両機関からそれぞれ学位が授与される制度である。

⑥　　海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、海外の教育機関等に所属せずに研究やフィールドワークを行う制度である。

短期留学制度

短期海外留学制度は夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学。

①　ショートビジット（学部・大学院修士）

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学する。「世界教養プログラム短期海外留学科目」の「ショートビジット」に登録して履修する。留学前教育や留学後教育を含め担当教員により単位が認定され、1 回の留学につき 2 単位が与えられる。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラムの形態であるのは、以下の 7 つの言語である。

表１：全員型プログラムショートビジット 専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ハノイ国家大学・人文社会科学大学	１年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学	１年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	１年次夏学期
アラビア語	カイロ大学またはアリー・バーバー・インターナショナルセンター	１年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	１年次冬学期
タイ語	シーナカリンウィロート大学	１年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学	２年次冬学期

② スタディツアー（学部）

協定大学との共同教育や海外での学修体験などを目的として、東外大や他の公的機関が提供するプログラムに傘傘下する。「世界教養プログラム」のスタディツアー科目に登録して履修する。上記のショートビジット同様、1 回の留学につき 2 単位が与えられる。

表 2　201 8 年度実施スタディツアー

- 「アジア太平洋地域に築く平和で包摂的な社会」――「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- ムンバイでスラムとソーシャルワークを学ぶ――「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- 国連研修プログラム
- ウズベキスタン･スタディツアー
- マレーシア・スタディツアー

③ 短期インターンシップ（学部・大学院）

東外大の「グローバルキャリアセンター」が実施する海外における短期インターンシップに参加する。参加を希望する学生は「グローバルビジネス講義」を履修している場合に優先される。また「就業体験科目」においても短期の海外インターンシップが実施されている。

以下は 201 8 年度に実施された短期インターンシップ：

□ UMW Toyota Motor Sdn Bhd　（マレーシア）

□ 矢崎投資有限公司　（中国）

□ PT.Toyota Motor Manufacturing Indonesia　（インドネシア）

□ AYANA HOTEL & SPA and RIMBA JIMBARAN by AYANA （インドネシア）
□ Toyota Motor Philippines Co Ltd （フィリピン）
□ 全日本空輸株式会社 （カナダ ・アメリカ）
□ FIDR （国際開発救援 財団 （カンボジア）
□ マツダメキシコ （メキシコ）

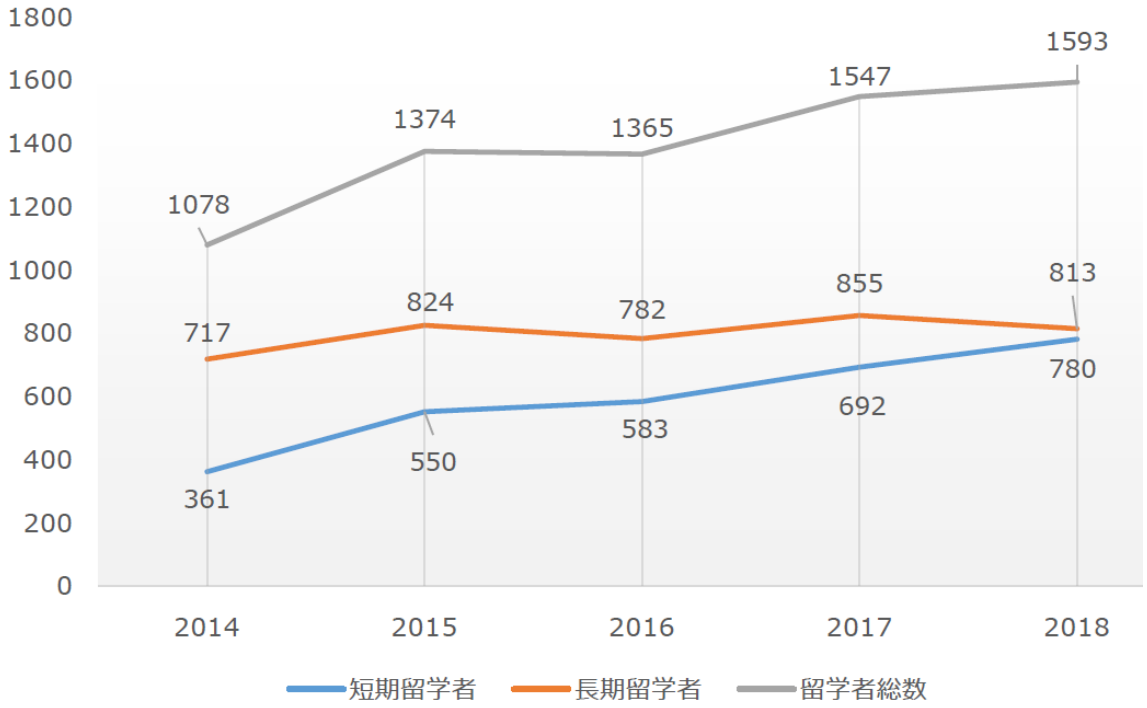
④ 日本語教育インターンシップ（学部・大学院）
日本語教育を学ぶ東外大生が、海外で取り組むインターンシップ。「言語文化学部グローバルコミュニケーションコース」や大学院の日本語教育分野で実施されている。

⑤ Joint Education Program: JEP （大学院）
大学院生を、各自の研究計画にもとづいて、夏学期・ 冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上も目的とした機会を提供する。JEP により、以下の目標を達成する。
①現地の協定校の教員から研究上のアドバイスを得る
②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う
③研究対象地域の大学での修学 経験を積み現地理解を深める
JEP 派遣の成果は東外大の主任指導教員の担当科目及び大学院の授業科目「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映される。

4.2018 年度の留学情況

本節では東外大の留学支援共同利用センター作成による『2018 年留学白書』のデータとその結果に基づき、2018 年度の本学の学部生の長期及び短期で留学状況についてみてみよう。（長期留学者は 2018 年度出発者、 同年度内に帰国した者の合計）

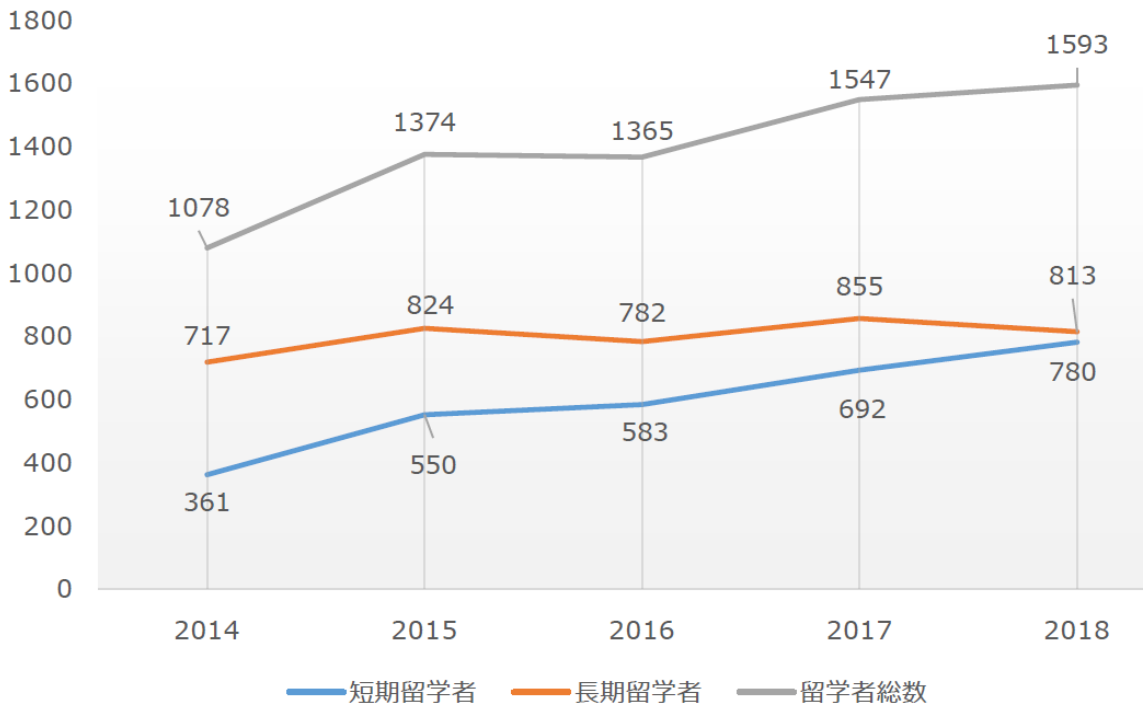
表 3　2014－2018 留学者数の推移



留学者総数は過去 5 年で最高に達し、留学者総数は全学生数の 41 %を占めている。2018 年度に休学をした学生が昨年度比で 100 名程度減少しており、休学をして留学をした学生が減少したことで 、長期留学者数は 40 名減となっている。短期留学者に関しては、昨年度比 90 名増加し、過去最高となっている。このことから短期留学者と長期留学者の差が縮まっている傾向が読みとれる。

次に種類別による長期留学者の推移についてみてみよう。

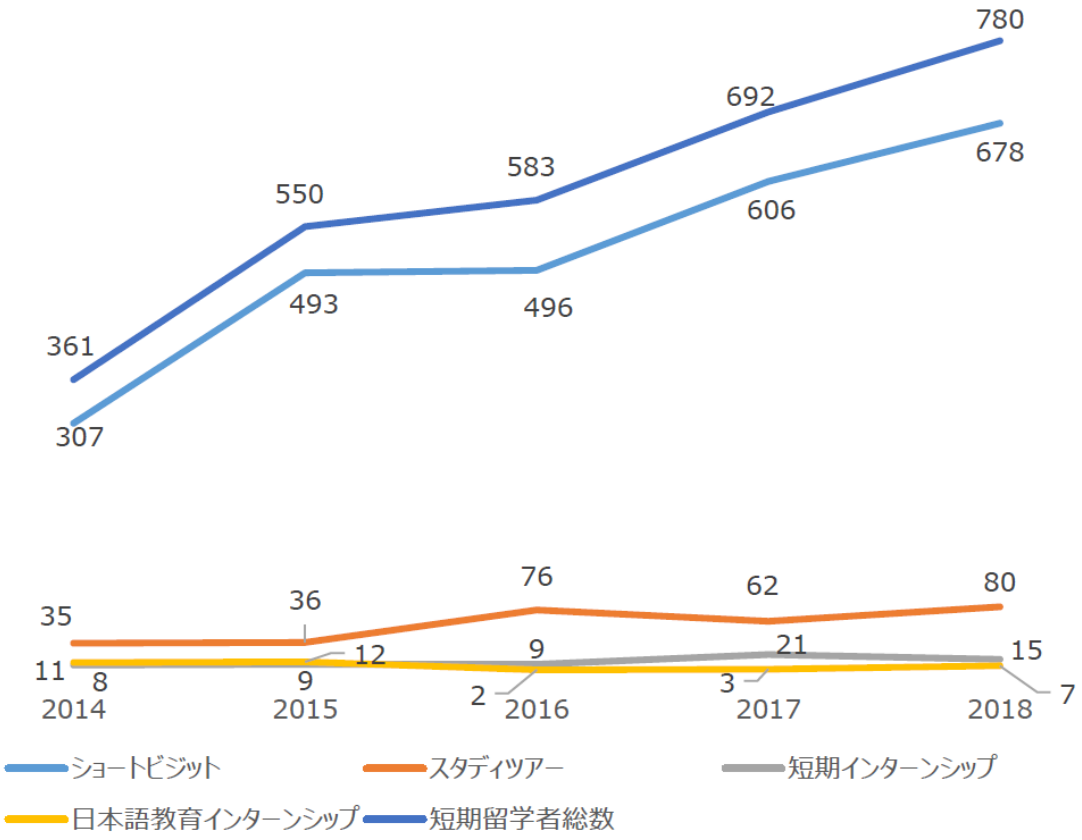
表 4　種類別 長期留学者数 の推移



長期留学種類別おける傾向は休学者数が昨年度比 100 名程度減少したことによって、休学留学、自由留学者数がともに減少している。ここで注目されることは、交換留学者数が増加していることに加え、単位認定のある休学留学者数と自由留学者数の差が縮まっていることである。

次に短期留学者数の推移についてみてみよう。

表 5　2018 年度 短期留学者数(2019.3.11 現在)



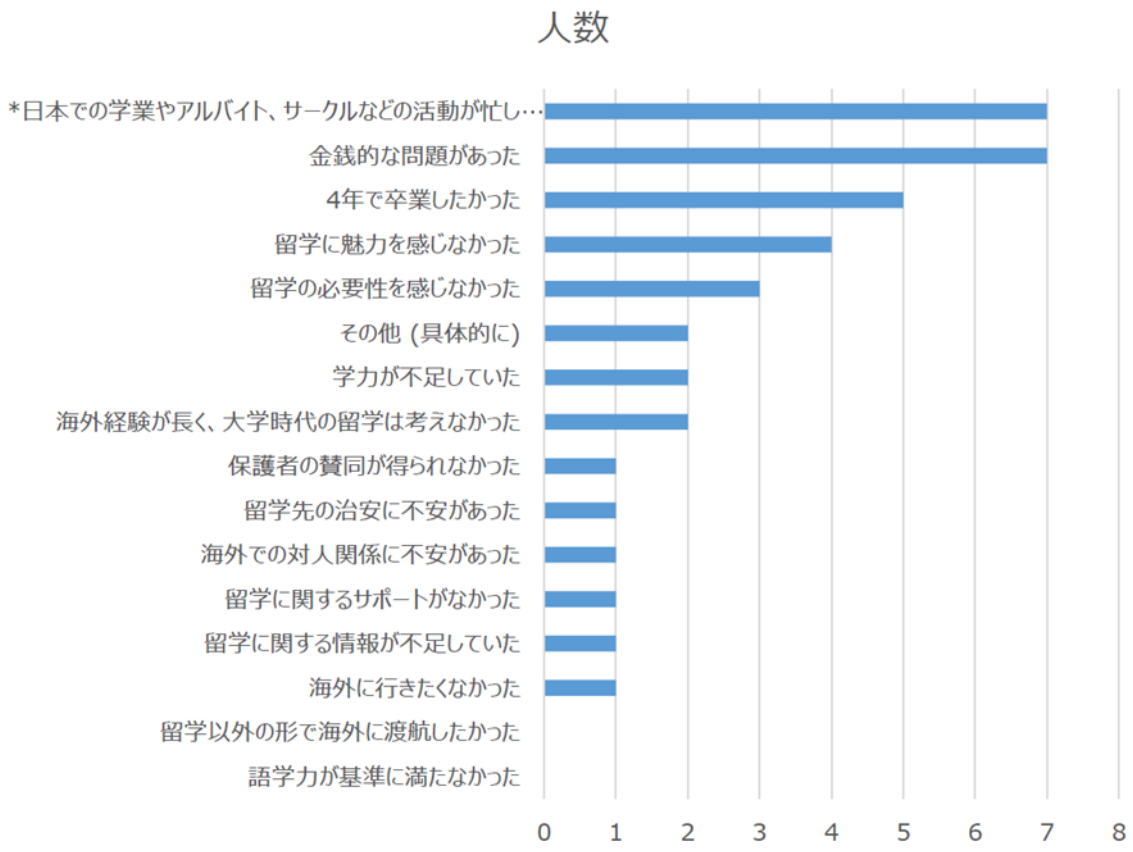
	2014	2015	2016	2017	2018
ショートビジット	307	493	496	606	678
スタディツアー	35	36	76	62	80
短期インターンシップ	8	9	9	21	15
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7
短期留学者総数	361	550	583	692	780

短期留学者数は過去 5 年間において最高人数となり、1 年生の半数以上がショートビジットに参加した。『留学白書』によれば、ショートビジット制度が充実・浸透したことが要因の一つとして指摘されており、2014 年度と比較した場合、短期留学者数は 2 倍以上に増加した。2018 年度には、制度の開始以来初めて、1 年生の半数以上が夏または冬のショートビジットに参加したことになる。

5. 留学をしなかった理由：学生 への調査

上述したように、東外大では入学時に 9 割の学生が留学を希望しているが、在学中留学をしなかったという者も多い。『白書』にはその理由が記載されている。(留学のデータがない 201 人 の学生 のうち有効なメールアドレスが把握できている学生 162 人 に アンケートを行い、20 人 の学生から回答があった)

表 6 学生が留学をしなかった理由



『白書』によれば「日本での学業やアルバイト、サークルなどの活動が忙しく、留学準備・留学にかける時間がなかった」ことが主な理由とされており、以下のような説明がなされている。

「金銭的な問題 と、日本での学業やアルバイト、サークルなどの活動が忙しく、留学準備・留学にかける時間がなかった、という回答がそれぞれ 7 名ずつと、最も多い回答でした。長期留学に関しては、交換留学制度を利用すると奨学金が受給できる可能性も高まりますが、その他の形では奨学金を受給することが難しく、留学実現の妨げになっていると考えられます。 また、交換留学生の多くが受給 する JASSO 奨学金 月 6 万円～ 10 万円 で生活費のすべてをまかなうことは、特に欧米では難しいのが現状です。 本学では 交換留学先の増加や派遣できる人数の確保等、制度を充実させ、 引き続き JASSO の奨学金獲得に向けて尽力し、その他の奨学金についても積極的に広報する等、留学をする学生のサポートを目指します。
また、4 年で卒業をしたかったという学生も 5 名 おり、 長期の留学が卒業時期に影響すると考える学生がいることが確認できます。 留学 の時期と就職活動の時期等で無理のないスケジュール組みの支援や 、交換留学の単位互換をスムーズに行う等の対策が必要です。その他 ２名の理由としては、「 日本語科であったため。 」「 自分が学びたいことは海外にしかないのか日本でも学べるのか、自分はわざわざ留学するほど勉強を頑張れるのかと金銭的な問題を天秤にかけた。 」という回答がありました。」

また、大学の留学サポートについて、学生が気付いた点や意見、意見を記述する欄には次のようなものがあった。

○ 語科によって学生数に対する派遣留学の枠数に大きな差があることは、入学前に知りたかった。 （英語専攻の学生より）

○一年生向けの留学サポートは大変充実していると思います。一方社会では英語が一般的に使用できることが前提となることが増えることを鑑みると、英会話などの授業、留学もまた必要だと感じました。

○アフリカの留学先・インターンシップ先をもっと積極的に、増やして下さい。 最近は変わりつつあるが 。自分が入学したての頃なんて、アフリカ地域専攻なんて、ほとんどアフリカでの留学・インターン先を紹介できなかった。なんだかんだ自分で申し込んで留学しました。大学からのサポートは推薦状作成などを除きなかった。

○とても充実していると感じます。

6.『留学白書』から読み取れる諸課題

本論をしめくくるにあたり以下では『留学白書』からみえる３つの課題についてみていこう。

① 長期留学の種類について

「白書」のデータからは、単位認定のない自由留学者の数が減少する一方で、交換留学者、単位認定の申請を行う休学留学者の数が増加傾向となっているのは、「好ましい傾向」と捉えられている。 そうした傾向の背景には単位認定が認められる留学を推奨していくため、「安価で加入できる学研災海外旅行保険対象者」の枠組みを 2019 年度より休学留学者にも拡大したことがあげられる。 今後も海外の教育機関に留学をする学生に対しては、可能な限り単位認定を行う形での留学休学留学を推奨していくとされる。

② 留学の単位認定について

東外大の留学の問題点の１つは、 とりわけ休学留学において、留学先で取得した単位を帰国後に単位認定する手続き をしない学生が多数みられる点である。海外で取得した単位を当該大で単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」手続きをする必要がある。単位の認定は帰国後 1 年以内に行うことになっている（ 休学留学の場合は、休学終了後 1 年以内)。

『留学白書 2016』に掲載されている交換留学者・休学留学者 2016 年度に帰国した学生および出発した学生の単位認定状況は以下である。

表 6 『留学白書 2016』掲載者の単位認定状況

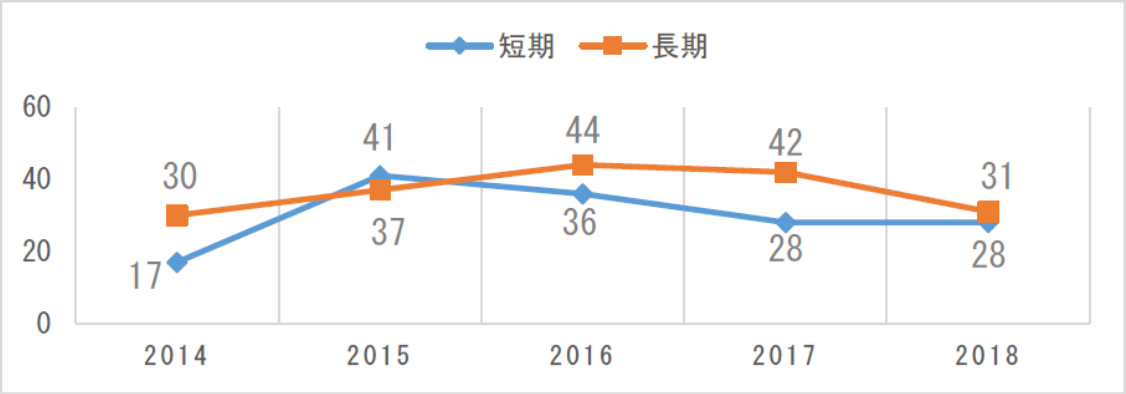
留学種類	留学者数	うち単位認定有（2018 年度末まで）	単位認定者率
交換留学	328	239	73%
休学留学	160	72	45%

交換留学者 のうち 7 割以上の学生が単位の認定を行っているが、、休学留学者の単位認定率は 45 %にとどまっている。

③ 大学院生の留学について

大学院生の留学の数は過去４ 年間でほとんど増えず、減少傾向が確認された。夏学期・冬学期の短期留学 ショートビジット プログラム数の増加にともない、大学院生向けのレベルの高いプログラムも提供されている。今後は大学院生にも積極的に参加を呼びかける。

表 7 2014 年度から 2017 年度の大学院生の期間別 留学者数の推移



まとめ

【世界がキャンパス】を合言葉に、東外大では「留学 200%」(在学中に短期と長期の計 2 回以上)を目標にして現在に至っている。そこでは学生が「留学経験を通じてのびやか精神を育み、また外国での苦労は成長の大きな糧となる」ことが求められている。

東外大の『留学白書 2018』によれば毎年留学者の総数が伸びていることがわかった。入学時に 9 割以上の学生が留学を希望する制度はどのように整備し、そして学生はどのようなサポートを求めているのか、 今後も継続して『白書』が作成されることで、留学制度の問題点や課題を整備や留学支援に結び付けていく必要性があろう。

参考文献・サイト

東京外国語大学 「スーパーグローバル大学構想」

（http://www.tufs.ac.jp/abouttufs/pr/strategicprojects.html 2020.01.03 アクセス）.

---------- 「平成 26 年度 スーパーグローバル事業等 「スーパーグローバル大学創生支援 構想調書 B タイプ」」(https://tgu.mext.go.jp/universities/tufs/index.html 2020.01.05 アクセス).

---------- 『TUFS 留学案内 2017』.

東京外国語大学留学支援共同利用センター『2018 年留学白書』.

文部科学省 「スーパーグローバル大学創成支援事業」(https://tgu.mext.go.jp/ 2020.01.04 アクセス).

---------- 「「スーパーグローバル大学創成支援事業」（平成 26 年度採択）の中間評価につ

いて」
(https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1401770.htm　2020.01.05 アクセス）.